

2013年12月19日

国立大学法人徳島大学長
香川 征 殿

徳島大学教職員労働組合
中央執行委員長 石田三千雄

公正で透明な理事選考についての要望

拝啓

徳島大学の発展のために日々ご尽力のことと拝察いたします。学内意向投票を経て、再度学長として選任されましたこととお祝い申し上げます。

とはいえ、残念ながら先生の得票数は360票で、有権者数939人の38.3%の信任を得たにすぎません。他の2名の候補者の得票数の合計は455票で、先生の得票数を大きく上回っています。こうした結果からは、これまで4年間の大学運営が無条件に支持されたとは言えず、むしろ批判の声が根強いことが明らかです。先生におかれましては、そうした批判の声を真摯に受止め、これから2年間の大学運営に取り組んでいただけることと信じております。

さしあたって、来年度の理事（副学長）の選考を進めておられることと思います。先生におかれましては、組合との懇談の席で、「教授の選考には公平性と透明性の確保が重要」で、そのためには「公募による複数候補者の競争が現状では最善」とのお考えをお示しになりました。組合としても、新規採用を行う場合には公募を行うことが妥当であると考えます（「昇任」を「公募」の体裁を借りて行うことには反対です）。また、普通の教授よりもはるかに社会的関心の高い理事の選考においては、いっそうの公平性と透明性の確保が重要であると考えます。

しかし、組合からの質問状に対して先生は、理事の選考において公募を行う意思はなく、「学長が責任を持って、学長自らが運営方針のベクトルが同じである理事を選考する」ことを明言されました。そうした選考において公平性と透明性を確保し、人選につき教職員が納得するためには、選考過程の公表などの措置が必要であると考えます。教授選考方法について学部の判断に任せることなく公募を義務付け、理事選考については「学長の判断に一任」では、著しくバランスを欠くと言わざるをえません。

つきましては、理事の選考につき、候補者の選定基準、何人の候補者を比較検討したか、選考の際の基準などにつき、具体的に公開していただきますことを希望します。もし選考過程の公表が不適切であるとお考えの場合には、理事選考過程における公平性と透明性の確保のために適切な措置をお取りいただきますよう、お願い申し上げます。下記二点のいずれかにつき、ご回答ください。

2月中のご回答を希望します。寒さ厳しき折、ご自愛くださいますよう。

敬具

記

- ① 理事（副学長）の具体的な選考過程について。
- ② 公正で透明な理事選考のためにお取りになった措置について。

以上